

AOYAMA GAKUIN UNIVERSITY NEWS

AGU News



AGUニュース第52号 [2010年6月~7月号]

2010 青山学院大学

広報入試センター広報課
〒150-8366 東京都渋谷区渋谷4-4-25
TEL. 03-3409-8111(代表)
URL. <http://www.aoyama.ac.jp>

No. 52

特集

高校生に青学の魅力を伝える“名ガイド” 有志のボランティア学生による 「キャンパスツアー」が 青山キャンパスで今春よりスタート!

TOPICS 2010年度 一般入学試験・大学入試センター試験利用入学試験結果
広がる海外の交換留学協定校
総合文化政策学部で“創造の現場を教室へ!”を実現するために、コース「一般講義・特別講義」を展開
国際マネジメント研究科と東京急行電鉄が連携し、マーケティングのプロジェクト演習科目を開講
学生と教職員へのiPhone™3G配付から1年。社会情報学部の成果と今後の展望

報告・お知らせ 2010年度 新役員紹介、新任専任教員紹介
2009年度 学生表彰、体育会優秀団体・選手表彰

誌上公開講座 青山スタンダード〈最終回〉
「青山スタンダード科目」は、本学学生の“質保証”につながります

INFORMATION 2010年度 ペアレンツウィークエンドのお知らせ
2010年度 進学相談会開催日程
2010年度 オープンキャンパス



相模原キャンパス

高校生に青学の魅力を伝える“名ガイド”。 有志のボランティア学生による 「キャンパスツアー」が 青山キャンパスで今春よりスタート!

本学を訪れた高校生等を対象に、在学生在がキャンパス内を案内する「キャンパスツアー」は、単なる施設紹介だけではなく、大学の歴史や伝統を伝えたり、日常の学生生活を紹介したりなど、在生から直接“生”の情報を聞ける機会として高校生等に人気のイベントです。相模原キャンパスでは以前から行われていましたが、2010年度より青山キャンパスでも実施されることになり、早くもツアー参加者から好評を博しています。

今回の「特集」では、学生ボランティアで運営されるキャンパスツアーの概要を紹介するとともに、参加学生による座談会(4～5ページ参照)を実施し、そのやりがいや今後の抱負などを聞きました。



学生の自主的な働きかけによって、
青山キャンパスでのツアーは実現しました。

相模原キャンパスに続き、2010年度から青山キャンパスでも高校生等を対象とした「キャンパスツアー」がスタートしました。通常の大学見学と異なり、在生と気軽に交流できるキャンパスツアーは、近年、高校生等の大学選びに大きな影響を与えるイベントのひとつになっています。

キャンパスツアーは、基本的に学生たちのボランティアで運営されており、今回、青山キャンパスでツアーが実現した背景にも、「ぜひ青山でも実施したい」という、学生側からの強い要望がありました。青山キャンパスツアーボランティアグループの代表を務める高田翔君(経済学部経済学科4年)は、相模原キャンパスで1年次からボランティアグループに参加していた“ベテラン”です。高田君が青山キャンパスでの実現に向け、積

極的に働きかけたのも、彼自身が相模原のツアーで大きな手応えを感じていたことがきっかけとなっています。

「相模原で2年間ツアーガイドを体験し、実際に僕のツアーを聞いて入学してきた後輩と出会えるなど、高校生に直接言葉が届く手応えを感じました。ツアーが青山にないことを聞いたとき、3年生になったら絶対に実現させようと考えていたんです」と高田君。大学を愛する学生ボランティアが、学生目線で“青学の魅力”を伝えるキャンパスツアーは、受験生に向けた貴重な「広報活動」の一環といえそうです。

オープンキャンパスでのツアー実現に向け、
新しい仲間の参加を募集中です。

キャンパスツアーの開催期間は、主に4月から12月です。仕事内容は、高校からの個

別の依頼に対応する「通常ツアー」と、オープンキャンパスや学園祭など大規模イベントでのツアーの実施が中心になります。青山キャンパスの場合は、まず正門前からスタートし、銀杏並木を歩きながら、ガウチャー・メモリアル・ホール、間島記念館、ベリーホールと回るのが一般的なコースです。それぞれのスポットごとに基本となる紹介コメントが用意されていますが、季節や時間帯、参加している高校生の“リ”などに応じて柔軟にアレンジするのがツアーガイドの腕の見せ所。キャンパスツアー終了後は、ツアーの精度を高めるために、学生同士でその日の反省や感想を意見交換するなど、次回に備えての“バージョンアップ”にも余念がありません。

ボランティアグループに登録している学生は、高校生が見学に来る時間帯と、自分の授業の空き時間とがマッチしたときに、自由



ツアー終了後も高校生からの個別の質問に丁寧に対応



参加した高校生に楽しい時間を過ごしてもらうことが最大の目的

に参加できる仕組みになっています。クラブやサークルと違い、あくまでボランティアのため、参加に強制力はなく、学生の自主性に任されているのが特色です。それでも「青学について調べれば調べるほど、新しい魅力がいくつも発見でき、その新発見を高校生たちに伝える作業は楽しく、絶対にやみつきになりますよ」と高田君が言うように、ツアーガイドに“やりがい”を見出し、何度も積極的に参加する学生が増えてきました。また相模原でも経験していた学生だけではなく、今年度からボランティアグループに登録した青山キャンパス所属の3、4年生もいます。とはいえ、さらにスタッフを増やしたいのが現場の切実な声です。

「相模原の登録人数は約50名ですが、授業との兼ね合いを考えると、実際に動けるのは25名前後です。相模原での経験から考えれば、高校生が大勢集まるオープンキャンパス時は、最低でも40名以上はスタッフが必要なので、もっと協力してくれる人を

集めたいですね。年度初頭には募集活動として説明会や模擬ツアーも行いました。興味のある人は、週に一度、定例のミーティングを行っているのでぜひ参加してください。一緒に青学の新しい魅力を見つけましょう！」と高田君。実はスタッフの人数の問題もあり、8月に青山キャンパスで開催されるオープンキャンパスでツアーを実施するかどうかは現段階で未定です。オープンキャンパスこそ、大勢の受験生に青学を知ってもらえる大きなチャンスでもあり、このチャンスを逃さないためにも、高田君をはじめとするスタッフは、さらなる在学生の参加を呼びかけています。

ツアーに参加した高校生の反応も上々。今後の活動に大いに期待してください。

2012年には就学キャンパスの再配置を予定するなど、大きな変革を遂げる本学において、その“進化”を身をもって体感してい

る在学生は、青学の魅力を高校生たちに伝えるのに最もふさわしい“名ガイド”かもしれません。学生たちのボランティア精神からスタートした青山キャンパスツアーは、今後回数を重ねるごとに成熟し、これからの本学をさらに輝かせるための、ひとつの象徴になっていくはず。彼らの活動を大学全体で見守りながら、しっかりとサポートしていきます。

実際に青山キャンパスツアーに参加した高校生からも「ガイドの人が面白く、大学をよく理解できました」「いろんな建物の歴史や意味がわかりました」「チャペルに入れて感激です」など、好意的な意見を数多く聞くことができました。また、ツアーが終わったあとも、個別の質問に丁寧に受け答える学生の姿が見られ、高校生等にとっても学生たちにとっても充実したイベントになっているようです。スタートしたばかりで、まだまだ成長途上の「青山キャンパスツアーボランティアグループ」ですが、これからの活動に大いに注目し、期待してください。

ノウハウを備えた相模原キャンパスでは、進化したキャンパスツアーが展開されています。

相模原キャンパスは、歴史的建造物に囲まれた青山キャンパスとは対照的に、その広大な敷地内に配された近代的な建物や設備、そして緑に恵まれた自然環境が大きな特色です。キャンパスツアーでも広々としたキャンパスのスケールに圧倒される高校生が多く見受けられます。「案内が一方通行にならないよう、高校生との対話を大切にしています」と、相模原キャンパスツアーボランティアグループ代表の久家良太君（教育人間科学部教育学科2年）が話すように、見学者との楽しい時間の共有が目標です。

また、相模原ではこれまでに蓄積したノウハウを生かし、相模原キャンパス全体をまるごと紹介する「まるかじりツアー」と、理工学部志望者向けの「理工ツアー」の2種類のツアーを用意するなど、高校生の希望に応じてきめ細かく対応しているのも自慢です。さらに地域との密着を目指す相模原キャンパスでは、ツアーの参加者は高校生に限らず、地元の小・中学生や近隣の方々も訪れます。いろいろな人との出会いを楽しめることも相模原ならではの魅力です。



相模原キャンパスツアーボランティアグループ



左より
副代表 田中法子さん
（文学部日本文学科2年）
代表 久家良太君
（教育人間科学部教育学科2年）
書記 鈴木美里さん
（文学部史学科2年）

キャンパスツアーガイドの“やりがい”と“面白さ”

まずは、青山キャンパスツアーボランティアグループとしての活動目的を教えてください。

高田 青山キャンパスの隠れた魅力を人に伝えることが最大の目的です。見学者に施設をただ見てもらうだけではなく、せっかく大学まで来てくれたからには、思い切り楽しませたり、ワクワクさせたり、何か印象に残る時間を過ごしてもらいたいと考えています。自分たちはそんな役割を担っているつもりです。

菊地 見学に来た高校生にとっては、私たちが青学の第一印象になるかもしれません。責任の重さも感じますね。

横井 どこの大学でも、入学する前と後で大学生活のイメージが違ったという話をよく聞きます。私たちのツアーで、青学にはそういうギャップが少なくなればうれしいです。

では、みなさんがボランティアグループに参加しようと考えたきっかけを教えてください。相模原で1年生から参加されている5名の皆さんはいかがですか。

高田 キャンパス内の立て看板で説明会の募集を見たのがきっかけです。実は参加して早々に青山では実施していないことを知り、自分が3年生になったときには、絶対青山でもツアーを実現しようと目論んでいました(笑)。

横井 中学、高校と部活をしていなかったのですが、大学では何か新しいことを始めようと考えていました。入学早々の勧誘でツアーの存在を知り、面白そうだと思ったのが最初です。

小川 私は高校時代、ここにいる高田さんに実際にツアーで案内していただいたんです。いくつか大学を見学しましたが、青学が一番面白く、入学の決め手のひとつになりました。

高田 自分の頑張りがこうしてダイレクトに伝わってくるのが、この仕事の面白さなんです

(笑)。

小川 入学してから、私も青学の良さをみんなに伝えてあげたいと思ってボランティアグループに参加しました。それと将来はツアーコンダクターになることが目標なので、人との接し方も学べるかもしれないと考えました。

小見 以前から人見知りな性格なので、ツアーガイドを経験することで人前で話せる積極さを身につけたいと思いました。また、青学に在籍するからには、何か大学に貢献しようという気持ちもありました。

坂田 僕は小見君に誘われたのがきっかけです。最初は少しお手伝いしたら辞めるつもりでしたが、気がつくところまで続いていました(笑)。でも、やっているうちに人に何かを伝えることの楽しさが理解できた気がします。

4年生にして青山での参加を決意された3名の皆さんの思いを聞かせてください。

山木 参加した直接の理由は横井さんに誘われたことですが、もともと青山キャンパスが大好きで、この青山の良さがどれだけ世間に伝わっているのかな、と疑問を持っていました。なので自分で大学の魅力を発信できる機会を得られたことは、とてもうれしく思います。

菊地 私は青山学院女子短期大学から編入したので、これまでずっと青山キャンパスで過ごしてきました。キャンパスのことはよく知っているつもりだったので、ツアーをお手伝いしようと考えたのですが、実際にツアーガイドを経験してみると自分が知らないキャンパスの魅力がたくさんあることに気付いたんです。在学生として本当に“もったいない”と感じました。そんなもったいないほどの魅力を高校生たちに存分に伝えたいです。

安部 4年生になると授業も少なくなり、自

由な時間が増えるので、何か有効に使いたいと思いました。それと新しい仲間と出会える機会にもなると考えました。想像以上に活動熱心な方々と知り合えて楽しいです(笑)。

この活動の“やりがい”や“メリット”を聞かせてください。

高田 とにかく来てくれた人たちが喜ぶ姿を見ることが、自分たちにとっての一番の喜びです。さっきも言いましたが、自分が頑張ったことがダイレクトに跳ね返ってくる機会が数多くあるので、本当にやりがいを感じます。

小川 自分がツアーで案内した高校生が翌年入学してきて、「ツアーのときは、ありがとうございました」と挨拶されたときは感激しました。また、ツアー後のアンケートに「小川さんのツアー良かったです」と書いてあったりするとうれしくて、次も頑張ろうと思います。

坂田 そうですね。直接にしる、アンケートにしる参加してくれた人から感謝の言葉をもらえるのが、この仕事の大きなやりがいだと思います。

小見 何度もツアーガイドをやっていると、「前にツアーに参加した〇〇高校の友達に聞いたんだけど…」と、自分たちの伝えた情報が口コミで広がっていることに気付くことがあります。ツアーのときだけでなく、その後も影響が広がっていると思うとうれしいです。

山木 参加者を楽しませることはもちろんですが、自分たちが楽しむこともそれ以上に大切だと考えています。“Win-Win”の関係のように、お互いに楽しい時間を共有できたときは充実感がありますよね。

横井 クラブやサークルと違って、あくまでもボランティアのグループなので、自分のペースで参加できる気軽さがいいですね。勉強、部活、バイトなども無理なく両立できます。

高田 自分たちは大学の事務局に直属する



高田 翔 君
(経済学部経済学科4年)



横井 麻衣子 さん
(文学部日本文学科4年)



安部 花子 さん
(文学部日本文学科4年)



菊地 瑞希 さん
(文学部日本文学科4年)



山木 純香 さん
(文学部日本文学科4年)

相模原で1年生からボランティアグループに参加していた高田君、横井さん、小川さん、小見君、坂田君、そして今春の青山から活動を始めた安部さん、菊地さん、山木さんの8名が、青山キャンパスツアーボランティアグループを代表して座談会を開催。グループに参加したきっかけや仕事のやりがいなどについて詳しく聞きました。



という位置づけの団体なので、何か行動するときに大学のサポートを受けやすい点がメリットですね。施設を使いたい、看板を立てたい、学園祭でイベントをしたいなど、やりたいことを実現できる可能性が高いと言えます。いろいろな企画や提案を考えることが好きな人にとっては、やりがいを感じられる環境です。

メンバーが集まるのは、基本的にツアーのある日だけですか。

高田 毎週金曜日の昼休みに青山キャンパス内で集まって、昼食を兼ねたミーティングを開き、いろいろな情報交換をしています。

横井 ツアーが終わった直後にも、その日の反省点や気付いた点をお互いに確認しあうこともよくあります。ツアーの内容をより良くしたいのは全員共通した思いですから。

菊地 同じ高校生でも学校によって生徒の雰囲気も違うので、ツアーの内容がマニュアル化しては対応できないですね。その日の高校生のニーズや思いを感じとって臨機応変に対応しないと。そういう意味でもみんなと情報や意見を交換するのは意義があ

ると思います。

安部 意見を出し合うときは、みんながそれぞれ意見を大切にしてくれるので、まだ入ったばかりの私でも感じたことを発言しやすいので安心です。

高田 青山キャンパスも2012年に新校舎ができるなど大きく変わります。また、青山という街自体が、日々進化するような性質をもった街です。そう考えると、キャンパスツアーの内容も常に完成形はなく、これからずっと新しい形に進化していくのではないのでしょうか。

ボランティアグループに参加したことで、あらためて見えてきた青学の魅力について教えてください。

横井 青山という立地条件もあり、授業以外の時間でも、いろいろと新しいことに触れることができる大学だと思います。同時に、新しいもの好きな学生も多く、お互いに刺激を与え合える環境が心地良いです。

高田 確かに新しい芸術やファッション、音楽などの文化的要素に気軽に会える環境ですね。一言で言えば「オシャレな大学」です。

菊地 学内だけでなく学外の人でも“最新の情報に敏感な大学”というイメージを青学には抱いています。でもその一方で、誇れる歴史と伝統を備えているのも間違いなく青学の本質です。そんな相対する特色がバランス良くとけあったキャンパスであることが、私の考える最大の魅力です。

安部 私は青学はとて“自由”な大学だと感じています。何か突き詰めたものを見つけると、トコトまで追究できる環境が用意されているイメージです。

小見 ファッションなど外見的にはもちろん、研究活動など外に見えない内面的なものも含めて、個々の学生が自分自身を思い切り主張しているように感じます。

坂田 僕は広島出身ですが、全国各地から学生が集まっているので、キャンパスでいろいろな人と出会えるのが楽しいです。それに設置されている学部学科も多彩なので、本当に個性のある人が多いと思います。

山木 ゼミやアド・ドゥルなどの活動が活発なので、教員と学生の距離が近く感じます。

小川 大学のことを好きな在学生が多いですよ。青学は卒業生のネットワークが充実していますが、それも愛校心を持って卒業された方が多いからこそでしょう。きっと私も卒業してからも大学を好きはずですし、そんな青学の良さをこれからも多くの人に伝えたいです。

高田 本当にそうですね。僕たちも気付いていない青学の魅力が、まだまだたくさんあると思います。今年スタートしたばかりの青山キャンパスツアーなので、これから年数を重ねるごとに、ドンドン進化していくはず。僕たちが卒業したあともずっと続いていくわけですから、少しでもスムーズに^{なま}襷をつなぐためにも、今年1年間しっかりと“土台”を築いていきたいと思っています。



小川 満里奈 さん
(文学部史学科3年)



小見 太一 君
(経済学部経済学科3年)



坂田 泰之君
(経済学部経済学科3年)

本件に関する問い合わせ先

〈青山キャンパス〉
広報入試センター広報課 (総研ビル1階)

〈相模原キャンパス〉
庶務ユニット企画・渉外グループ (B棟2階)

2010年度一般入学試験・ 大学入試センター試験利用 入学試験結果

2010年度の一般入学試験においては、従来の入学試験日に加え、《全学部日程》の試験日を設定いたしました。また、大学入試センター試験利用入学試験では、文学部（英米文学科・日本文学科）と教育人間科学部（教育学科・心理学科）において、新規に実施いたしました。2010年度の本学における一般入学試験と大学入試センター試験利用入学試験の志願者総数は、53,695名（対前年1,235名減、97.8%）となりました。

《一般入学試験》

2010年度一般入学試験では、《全学部日程》で5,143名、《個別学部日程》で33,833名の志願者を集めました。《個別学部日程》では、法学部以外の学部は全て志願者減となり、合計では、38,976名（対前年1,617名減）となりました。

初めて実施した《全学部日程》の全学部の平均実質倍率は6.7倍となり、《個別学部日程》の平均実質倍率4.9倍と比して、受験者にとっては厳しい結果となりました。

《大学入試センター試験利用入学試験》

大学入試センター試験利用入学試験は、教育人間科学部の新規利用により、2005年度に法・国際政治経済・理工の3学部で利用を開始して以来、初めて全学部揃っての実施となりました。

志願者数は《前期日程》において、昨年度と比べ全学部合計で432名の志願者増となった一方、《後期日程》では、全学部あわせて50名の志願者減となりました。《前期日程》と《後期日程》の志願者総数は、14,719名となり、本学が大学入試センター試験利用入学試験を実施して以来、過去最高の数字となりました。

本学では、2012年度より4年間一貫による教育環境のさらなる充実を図るため、「青山」「相模原」2キャンパスの就学キャンパスの再配置を計画しています。これにより、2011年度入学試験における人文・社会科学系7学部（文・教育人間科・経済・法・経営・国際政治経済・総合文化政策）の入学者は、第2年次より青山キャンパスで学ぶこととなります。一方、青山キャンパスにおいては2011年度より文学部第二部英米文学科の募集を停止することとなりました。

広報入試センターでは、これらの情報と2010年度入学試験結果、2011年度入学試験の詳細を大学紹介パンフレット『大学案内』に掲載し、6月より全国の受験者に頒布いたします。

広報入試センター「進学情報コーナー」に行ってみよう!

青山キャンパスの総合研究所ビル1階には、本学への進学に関するさまざまな情報を提供する「進学情報コーナー」が設けられていますので、お気軽にご利用ください。

平日9時～17時、土曜日9時～13時

（夏期休業期間等は開室日・時間が変更になることがあります）

お問い合わせ先 TEL.03-3409-8626

2010年度 入学試験結果 一般入学試験（個別学部日程）

学部・学科		方式・募集人員	志願者	合格者	倍率	
文学部	英米文学科	A	約150	1,646	*430	3.7
		B	約40	680	*123	5.2
		計	約190	2,326	553	4.0
	フランス文学科	A	約60	569	148	3.6
		B	約10	77	22	3.1
		計	約70	646	170	3.6
	日本文学科	A	約65	814	201	3.7
		B	約10	158	22	6.7
		計	約75	972	223	4.0
	史学科	A	約60	686	171	3.8
		B	約10	215	61	3.0
		計	約70	901	232	3.6
合計			約405	4,845	1,178	3.9
教育人間科学部	教育学科	A	約70	1,443	244	5.6
		B	約10	301	29	9.8
		計	約80	1,744	273	6.1
	心理学科	A	約60	832	212	3.7
		B	約5	178	12	13.3
		計	約65	1,010	224	4.3
合計			約145	2,754	497	5.3
経済学部	経済学科	A	約185	4,245	*451	8.2
		B	約45	1,127	103	9.4
		計	約230	5,372	554	8.4
	現代経済デザイン学科	A	約40	527	*63	7.3
		B	約20	256	22	9.5
		計	約60	783	85	7.8
合計			約290	6,155	639	8.3
法学部	法学科	A	約80	1,128	206	4.9
		セ	約170	1,763	571	2.7
		合計	約250	2,891	777	3.2
経営学部	経営学科	A	約160	3,543	*603	5.5
		B	約35	934	96	8.7
		計	約195	4,477	699	5.9
	マーケティング学科	A	約80	881	151	5.5
		B	約15	395	36	10.1
		計	約95	1,276	187	6.4
合計			約290	5,753	886	6.0
国際政治経済学部	国際政治学科	A	約50	843	139	5.2
		B	約5	68	9	6.8
		計	約55	911	148	5.3
	国際経済学科	A	約40	433	91	3.9
		B	約5	101	18	4.8
		計	約45	534	109	4.1
	国際コミュニケーション学科	A	約25	656	101	5.5
		B	約13	167	40	3.6
		計	約38	823	141	5.0
合計			約138	2,268	398	4.8
総合文化政策学部	総合文化政策学科	A	約100	1,893	265	6.9
		B	約30	600	53	8.8
		合計	約130	2,493	318	7.2
理工学部	物理・数理学科	A	約28	551	*148	3.6
		B	約17	283	*89	3.1
		セ	約5	47	7	6.1
		計	約50	881	244	3.4
	化学・生命科学科	A	約28	784	200	3.7
		B	約17	280	60	4.3
		セ	約5	34	8	3.8
		計	約50	1,098	268	3.8
	電気電子工学科	A	約30	455	*145	3.0
		B	約20	274	93	2.7
		計	約50	729	238	2.9
	機械創造工学科	A	約35	489	*140	3.4
		B	約15	277	*91	2.8
		セ	約4	41	21	1.9
		計	約54	807	252	3.0
	経営システム工学科	A	約30	365	74	4.7
		B	約20	326	49	6.2
		計	約50	691	123	5.3
情報テクノロジー学科	A	約25	379	*87	4.1	
	B	約20	258	*73	3.2	
	セ	約5	71	*17	3.8	
	計	約50	708	177	3.7	
合計			約304	4,914	1,302	3.5
社会情報学部	社会情報学科	A	約80	1,088	*211	5.0
		B	約25	202	*45	4.3
		合計	約105	1,290	256	4.8
昼間部合計			約2,057	33,363	6,251	4.9
文学部	英米文学科	A	約35	357	65	4.8
		B	約20	113	34	2.9
		合計	約55	470	99	4.1
第二部（夜間部）合計			約55	470	99	4.1
昼間部・第二部総合計			約2,112	33,833	6,350	4.9

セ：センタープラス方式
倍率＝受験者／合格者
合格者に※印がある場合は、補欠を含みます。

一般入学試験〈全学部日程〉

学部・学科	方式	募集人員	志願者	合格者	倍率	
文学部	英文文学科	15	507	46	10.8	
	フランス文学科	10	133	31	4.1	
	日本文学科	7	94	18	5.0	
	史学科	10	136	24	5.6	
	合計	42	870	119	7.1	
教育学部人間	教育学科	15	467	44	10.1	
	心理学科	5	187	13	13.7	
経済学部	経済学科	30	524	94	5.4	
	現代経済デザイン学科	10	188	40	4.6	
	合計	40	712	134	5.2	
経営学部	法学部法学科	30	712	110	6.2	
	経営学科	30	421	58	7.1	
	マーケティング学科	15	192	23	8.1	
	合計	45	613	81	7.3	
国際政治経済学部	国際政治学科	5	145	15	9.3	
	国際経済学科	5	104	16	6.4	
	国際コミュニケーション学科	5	127	17	7.2	
	合計	15	376	48	7.6	
理工学部	総合文化政策学部総合文化政策学科	20	414	71	5.7	
	物理・数理学科	7	107	24	4.1	
	化学・生命科学科	7	127	16	7.2	
	電気電子工学科	5	57	11	4.6	
	機械創造工学科	5	77	10	7.3	
	経営システム工学科	3	74	10	6.6	
	情報テクノロジー学科	5	66	10	6.1	
	合計	32	508	81	5.7	
	社会情報学部社会情報学科	A	15	230	26	8.6
		B	5	54	15	3.5
	計	20	284	41	6.8	
		264	5,143	742	6.7	

倍率=受験者/合格者

大学入試センター試験利用入学試験〈後期日程〉

学部・学科	募集人員	志願者	合格者	倍率	
法学部法学科	5	41	17	2.4	
経営学部	経営学科	3	27	19	1.4
	マーケティング学科	2	11	8	1.4
	合計	5	38	27	1.4
国際政治経済学部	国際政治学科	3	54	3	18.0
	国際経済学科	3	61	3	20.3
	国際コミュニケーション学科	3	71	3	23.7
	合計	9	186	9	20.7
理工学部	物理・数理学科	3	7	4	1.8
	化学・生命科学科	3	14	4	3.5
	電気電子工学科	2	7	3	2.3
	情報テクノロジー学科	2	11	5	2.2
	合計	10	39	16	2.4
社会情報学部社会情報学科	3	54	15	3.6	
総合計	32	358	84	4.3	

倍率=志願者/合格者

2010年度 都道府県別志願者・合格者

都道府県名	一般入学試験		大学入試センター試験利用入学試験			
	志願者	合格者	志願者	合格者		
北海道・東北	北海道	539	84	301	45	
	青森	97	19	89	14	
	岩手	80	16	55	11	
	宮城	298	45	166	24	
	秋田	140	22	104	12	
	山形	98	26	87	16	
	福島	377	64	175	29	
	小計	1,629	276	977	151	
	北関東	茨城	1,168	218	541	90
		栃木	598	122	276	43
群馬		651	102	317	54	
小計		2,417	442	1,134	187	
首都圏		埼玉	2,781	473	841	131
	千葉	2,566	407	858	106	
	東京	11,440	2,143	3,609	531	
	神奈川	9,424	1,865	2,785	396	
	小計	26,211	4,888	8,093	1,164	
	北陸・甲信越	新潟	434	70	234	36
		富山	214	34	144	20
石川		180	32	102	7	
福井		66	14	53	5	
山梨		291	46	140	18	
長野		628	119	379	60	
小計		1,813	315	1,052	146	
中部		岐阜	311	69	151	32
		静岡	1,080	213	500	87
		愛知	998	199	518	87
	三重	179	38	98	19	
	小計	2,568	519	1,267	225	
近畿	滋賀	63	18	22	4	
	奈良	62	5	20	5	
	和歌山	65	14	45	3	
小計	190	37	87	12		
京阪神	京都	134	15	56	12	
	大阪	445	55	170	23	
	兵庫	401	62	131	20	
	小計	980	132	357	55	
	中国	鳥取	57	4	39	6
島根		41	6	26	3	
岡山		128	18	71	12	
広島		413	73	197	35	
山口		148	23	91	11	
小計		787	124	424	67	
四国		徳島	47	9	48	12
		香川	127	34	107	17
		愛媛	141	25	121	26
		高知	95	16	67	6
	小計	410	84	343	61	
	九州・沖縄	福岡	685	108	334	50
		佐賀	114	14	70	8
長崎		81	15	79	9	
熊本		141	18	105	15	
大分		104	17	77	17	
宮崎		74	14	63	12	
鹿児島	114	11	70	15		
沖縄	92	11	51	5		
小計	1,405	208	849	131		
高等学校卒業程度認定試験地	484	57	131	13		
外国他	82	10	5	1		
合計	38,976	7,092	14,719	2,213		

大学入試センター試験利用入学試験〈前期日程〉

学部・学科	募集人員	志願者	合格者	倍率		
文学部	英文文学科	5	1,106	72	15.4	
	フランス文学科	10	447	98	4.6	
	日本文学科	5	434	72	6.0	
	史学科	5	581	142	4.1	
	合計	25	2,568	384	6.7	
教育学部人間	教育学科	10	965	152	6.3	
	心理学科	5	540	49	11.0	
経済学部	経済学科	10	1,105	240	4.6	
現代経済デザイン学科	2教科型	5	347	40	8.7	
	3教科型	5	362	57	6.4	
	4教科型	10	120	43	2.8	
	計	20	829	140	5.9	
	合計	30	1,934	380	5.1	
法学部法学科	3教科型	10	816	52	15.7	
	4教科型	10	376	63	6.0	
	計	20	1,192	115	10.4	
経営学部	経営学科	7	558	9	62.0	
	マーケティング学科	3	214	5	42.8	
	合計	10	772	14	55.1	
国際政治経済学部	国際政治学科	3教科型	13	686	108	6.4
		4教科型	5	185	43	4.3
		計	18	871	151	5.8
	国際経済学科	2教科型	10	435	61	7.1
		3教科型	8	413	53	7.8
		4教科型	10	361	71	5.1
		計	28	1,209	185	6.5
	国際コミュニケーション学科	9	417	48	8.7	
		合計	55	2,497	384	6.5
	理工学部	総合文化政策学部総合文化政策学科	10	577	75	7.7
物理・数理学科		5	270	76	3.6	
化学・生命科学科		5	400	68	5.9	
電気電子工学科		3	395	68	5.8	
機械創造工学科		3	331	79	4.2	
経営システム工学科		5	246	81	3.0	
情報テクノロジー学科		3	418	51	8.2	
合計		24	2,060	423	4.9	
社会情報学部社会情報学科		15	1,256	153	8.2	
		204	14,361	2,129	6.7	

倍率=志願者/合格者

広がる海外の交換留学協定校



副学長
土山 實男

青山学院大学は2010年3月までに海外に79の協定校を持っており、そのうち70校と留学生交換協定を締結しています。現在81名の交換留学生在本学で学び、59名の本学学生が同じく交換留學生として海外で学んでいます。交換留學生だけでなく、私費留學生の数も徐々に増えており、現在314名の留學生が本学で学んでいます。

本学が国際的ネットワークを拡大することは、本学の研究プロジェクトや教育プログラムが国際社会で評価を受けている結果でもありますし、本学の研究・教育力、あるいはひろく競争力を高めていくためにさらに情熱をそそがなければならない大きな課題でもあります。

昨年度から、英文パンフレットや英・中・韓国語のウェブの作成、そして海外の大学にリエゾンオフィスを開設するなど、この領域での活動を深めてきましたが、交換留學生をこれまでの英米および東アジアに加えて、より広い地域に拡大してきました。その成果が、この2、3ヶ月のあいだに形になっています。たとえば、東ヨーロッパの名門大学であるポーランドのワルシャワ工科大学とハンガリーのブダ

ペスト大学、あるいはカザフスタンのカザフ民族大学との協定締結です。クラコフにあるヨーロッパで最も古い大学のひとつとも、現在交渉が進んでいます。これらの提携は、どれもこれらの国々の駐日大使や本学関係者のご支援をいただきました。このほかにも東ヨーロッパの大学数校との交渉が進展しています。2月にはドイツのデュッセルドルフ大学の元みち子 元副学長が、また3月にはケルン大学のフライムト学長が来校されてそれぞれ協定が結ばれましたし、ミュンスター大学とも協定ができ、これでデュッセルドルフ地域に本学のヨーロッパの拠点ができることにもなります。2月にはブラジルのサンパウロ・メソジスト大学のM.モラエス学長も本学に来校され、本学とのあいだに南米で初めて一般協定が結ばれました。英国のある名門大学との協定もまもなく締結の運びです。



ケルン大学アクセル・フライムト学長と本学伊藤定良学長

交換留學以外にも本学が国際化しなければならない領域はまだ多くあります。しかし、このように本学のプログラムが国際化されることで、本学自体が外からも内からも改革され力をつけるものと期待されます。

総合文化政策学部で“創造の現場を教室へ!”を実現するために、コース「一般講義・特別講義」を展開

文化・芸術を世界に発信する人材を育成する総合文化政策学部では、学習をナビゲーションする目的で「メディア文化」「都市・国際文化」「アートマネジメント」の3コースを用意しています。そして、それらに対応する形で「メディア文化論」「エリア文化論」「芸術文化論」のコース科目が設置されていますが、それぞれに「一般講義」と「特別講義」を設けているのが特色です。2008年4月の学部設置の段階から“学びの柱のひとつ”と位置づけられている一般講義と特別講義の特色について、総合文化政策学部長の杉浦勢之教授に話を聞きました。



総合文化政策学部長
杉浦 勢之

総合文化政策学部では、学部設置当時にふたつの重要コンセプトを設定しました。ひとつが「青山の街をキャンパスに!」、もうひとつが「創造の現場を教室へ!」です。「青山の街をキャンパスに!」に関しては、青山コミュニティ・ラボ(ACL)を活用したラボ・アトリエ実習を通して、地域とも連携しながら、より実践的な学びを展開しています。大学の枠に収まらない幅広い取り組みによって、徐々に成果

も見えつつある段階です。そして一方の「創造の現場を教室へ!」ですが、学生たちにプロの現場を知ってもらうべく、各ジャンルの第一線で活躍されている方を「講師」として大学に招くのが基本路線でした。しかし、その道ではプロの方であっても、学問の体系と関わらせて学生に「教える」ことは難しい。また講義の内容をすべて先方に

任せるとは、学問領域や本学部の人材育成の狙いや方針とずれてしまう恐れもあります。そこで考え出されたのが「一般講義」と「特別講義」という科目の設定でした。

前期に行われる「メディア文化論」「エリア文化論」「芸術文化論」の各科目の一般講義は、原則として本学の教員が担当します。そしてそれぞれの分野における産業の現状や諸問題などを厳しさも含め、学術的にレクチャーし、その分野について真剣に学びたいのかどうかを学生自身に見極めさせる役割を担います。後期の特別講義では業界のプロを招いて実践的な学びを行います。一般講義の単位を取得した学生だけが受講できる仕組みなので、単なる興味本位ではなく“本気”でその分野を志す学生だけが残る形になっています。

3コースのなかでは私が担当する「メディア文化論」が先行して、昨年度から開講しています。特別講義ではフジテレビの情報制作局の全面協力を得て、放送メディアの企画制作の現場について有意義な講義を行いました。フジテレビには今年度も引き続き協力いただけることになり、さらにラボ立ち上げに結びつける新しい展開に取り組んでいるところです。

井口典夫教授が担当する「エリア文化論」と「芸術文化論」も今年度からスタートしました。これでメディア、エリア、アートという本学部の“3本柱”がそろって本格稼働を始めたといえます。一般講義と特別講義は、学生たちが自分の進む道を選択するための重要な機会です。3年目を迎え、この一般講義と特別講義が今後もたらす成果に、ぜひとも注目していただきたいと思います。

国際マネジメント研究科と東京急行電鉄が連携し、 マーケティングのプロジェクト演習科目を今年度より開講



国際マネジメント
研究科長
高橋 文郎 教授

本研究科のMBAプログラムでは、2年次の“総まとめ”となる科目「体験的学習プロジェクト」を設けています。院生が少人数のグループ単位で、実際のビジネスさながらの実践的演習に取り組むものです。プロジェクトの領域は多岐にわたり、例えば、米国カーネギーメロン大学ビジネススクールと提携する「マネジメント・ゲーム」では、仮定の消費財会社を設立して経営や運営に携わったり、ファイナンス系の「ファンド・マネジメント・シミュレーション」では、大手証券会社の支援のもと日本の株式投資を模擬的に体験したりなど、シミュレーションとはいえ、院生たちは“真剣勝負”でビジネスの世界を体感しています。

そして2010年度からは、念願でもあったマーケティング系科目「マーケティング・プランニング・プロジェクト」を開講しました。初年度から東京急行電鉄株式会社リテール事業本部との産学連携を実現し、より実践的な学びの舞台を用意できたことで、我々もこれからの展開が非常に楽しみです。ともに渋谷・青山エリアを拠点とする東急電鉄と青山学院大学でもあり、マーケティングに造詣の深い宮副謙司教授のもと、今回のプロジェクトを企業と大学相互だけでなく、地域や街の活性化にまで広げていければ理想的ですね。



国際マネジメント
研究科
宮副 謙司 教授

開講初年度の「マーケティング・プランニング・プロジェクト」では、東急電鉄グループの代表的商業施設「SHIBUYA109」の営業戦略やデベロッパービジネスについて、マーケティングとマネジメントの両方の視点からケース研究に取り組みます。東急電鉄側からも「社会人を中心としたビジネススクール学生による研究と提案に期待する」との言葉をいただいているので、最終的にはマーケティング・マネジメントの運営モデルの提言にまで導ける調査・分析・考察を進めていくつもりです。

本プロジェクトは通年科目であり、前期(4月～7月)は“仮説構築のための事前研究”の時期と位置づけ、消費トレンドや業態動向などを調査しつつ、研究対象の「SHIBUYA109」のマーケティング戦略、施設運営の成果と課題について仮説を構築し、研究計画の方向性を見極めます。その後、後期(9月～翌年1月)には、実際に店舗フィールド調査やスタッフへの取材など、より具体的な調査・分析・考察を行います。そして、それらを踏まえてグループワークを重ねて報告書を作成し、東急電鉄の経営幹部層に対して報告提案を実施する予定です。せっかく用意した実践的なプロジェクトですので、院生たちが高いレベルのマーケティング調査・研究能力、コンサルティング能力を身につけられるよう有意義な演習にしていきます。

学生と教職員へのiPhone™3G配付から1年。 社会情報学部の成果と今後の展望



社会情報学部
飯島 泰裕 教授

社会情報学部では、「高度に発達した情報化社会で広く活躍できる人材育成」を教育方針に掲げ、「生きた情報に精通した社会で役立つ力」の習得を目指しています。2009年5月14日に実現したソフトバンクモバイル株式会社およびソフトバンクテレコム株式会社との協定締結は、そのための施策の一環とも呼べるものです。同社のiPhone™3Gを本学部の学生と教職員全員に配付し、モバイル・ネット社会やユビキタス・コンピューティング、さらには知識情報社会について共同で研究・教育に取り組んでいます。

この協定は単なる端末の提供ではなく、ソフトバンク側から時代の先端を行くキーマンを招いて特別講座を開くなど、あくまで共同による研究・教育活動が目的です。アプリの開発に積極的な学生たちが、ソフトバンクからの紹介で研修に参加し、彼らが開発したアプリがこの4月から実際に発売された実績もあります。日進月歩のIT分野に強くなることは、社会での大きなアドバンテージになるはずですが。

取り組みから1年が経過し、iPhone™3Gの可能性もいろいろと見えてきました。モバイル・ネット社会に対する検証・提案等の場として、ゼミでのフィールドワークのツールとして、就職活動をサポートするツールとして等、さらなる有効活用を実践していくつもりです。



社会情報学部
宮治 裕 准教授

iPhone™3G導入の狙いはいろいろ挙げられますが、世界規模でのビジネスを可能にすると注目されている最先端の機器を、実際に手にして“体感”してみることが何よりも大切だと思います。

具体的な活用法としては、これまで授業の度に配付していたプリントをデータ配信に代えました。さらに一部の授業はビデオ撮影し、動画を配信しています。これらの“教材”を学生たちは、いつでもどこでも繰り返し、“復習”することができるのです。

また最も効果的だったのが、e-Learningでの活用です。ITサポートの資格試験対策用に開発した「e-veryStudy」では、過去問題に何度でも挑戦できます。その正解数がランキングとして表示されることもあり、刺激を受けた学生たちが競って過去問題にチャレンジする姿が見られ、実際に合格者の輩出にもつながりました。常に携帯するiPhone™3Gだからこそ、通学時や寝る前などの“すき間時間”を学習時間として有効活用できた成果です。

その他、出席採取、授業時アンケート、学習アプリの活用など、さまざまな用途で活用されるiPhone™3Gですが、その背景には、本学部の取り組みに協賛いただける多くの企業との連携があります。積極的なコラボレーションをこれからも展開していきたいですね。

2010年度 新役員紹介

文学部長・文学研究科長 西澤 文昭

西澤 文昭教授は2010年3月末日をもって任期を満了、引き続き同氏が再任された。任期は2010年4月1日より2年間。

経済学部長・経済学研究科長 米澤 義衛

平澤 典男教授は2010年3月末日をもって任期を満了、後任には米澤 義衛教授が選任された。任期は2010年4月1日より2年間。東京大学大学院経済学研究科博士課程単位取得退学。経済学修士。情報科学研究センター副所長(青山キャンパス)、経済学部第二部経済学科主任を歴任。



法学部長・法学研究科長 菊池 純一

土橋 正教授は2010年3月末日をもって任期を満了、後任には菊池 純一教授が選任された。任期は2010年4月1日より2年間。慶應義塾大学大学院後期博士課程経済学研究科経済学専攻単位取得退学。経済学修士。法学部法学科主任、法学研究科ビジネス法務専攻主任を歴任。



国際政治経済学部部長・国際政治経済学研究科長 仙波 憲一

仙波 憲一教授は2010年3月末日をもって任期を満了、引き続き同氏が再任された。任期は2010年4月1日より2年間。

総合文化政策学部部長・総合文化政策学研究科長 杉浦 勢之

石崎 晴己教授は2010年3月末日をもって任期を満了、後任には杉浦 勢之教授が選任された。任期は2010年4月1日より2年間。名古屋大学大学院経済学研究科博士課程満期修了退学。経済学修士。学生部副部長(第二部担当)、経済学部第二部学科主任、第二部担当学長補佐、副学長(将来構想及び第二部担当)、総合文化政策学部教務主任等を歴任。



理工学部長・理工学研究科長 林 洋一

辻 正重教授は2010年3月末日をもって任期を満了、後任には林 洋一教授が選任された。任期は2010年4月1日より2年間。名古屋大学大学院工学研究科修士課程電気工学専攻修了。工学博士。情報科学研究センター所長、理工学部電気電子工学科主任、理工学研究科電気電子工学専攻主任等を歴任。



社会情報学部長・社会情報学研究科長 稲積 宏誠

魚住 清彦教授は2010年3月末日をもって任期を満了、後任には稲積 宏誠教授が選任された。任期は2010年4月1日より2年間。早稲田大学大学院理工学研究科機械工学専攻博士後期課程退学。工学博士。理工学部長、理工学研究科長、学生相談センター分室長(相模原キャンパス)等を歴任。



法務研究科長 山崎 敏彦

山崎 敏彦教授は2010年3月末日をもって任期を満了、引き続き同氏が再任された。任期は2010年4月1日より2年間。

図書館長 山本 吉宣

国際政治経済学部国際政治学科 山本 吉宣教授は2010年3月末日をもって任期を満了、引き続き同氏が再任された。任期は2010年4月1日より1年間。

学生部長 井出 英人

経済学部経済学科 本郷 茂教授は2010年3月末日をもって任期を満了、後任には理工学部電気電子工学科 井出 英人教授が選任された。任期は2010年4月1日より2年間。



情報科学研究センター所長 宮川 裕之

理工学部電気電子工学科 林 洋一教授は2011年3月末日をもって任期を満了のところで、社会情報学部社会情報学科 宮川 裕之教授がその残存期間を務めることとなった。任期は2010年4月1日より1年間。



国際交流センター所長 岩田 伸人

文学部英米文学科 吉波 弘教授は2010年3月末日をもって任期を満了、後任には経営学部マーケティング学科 岩田 伸人教授が選任された。任期は2010年4月1日より2年間。



外国語ラボラトリー所長 横谷 輝男

理工学部 藤山 友行教授は2010年3月末日をもって任期を満了、後任には文学部英米文学科 横谷 輝男准教授が選任された。任期は2010年4月1日より2年間。



2010年度 新任専任教員紹介

2010年4月1日付就任者の所属、氏名、専門分野を掲載しています。

【文学部 英米文学科】

ALLEN 玉井 光江 教授

児童英語教育

【文学部 史学科】

青木 敦 教授

東洋史学

岩井 浩人 助手

日本考古学

【教育人間科学部】

高木 亜希子 准教授

英語教育

佐藤 周平 助手

体育学

【教育人間科学部 教育学科】

佐々木 竜太 助教

日本教育史

藤田 梓 助手

日本画

【教育人間科学部 心理学科】

繁樹 江里 准教授

社会心理学

【経済学部】

北村 純 助教

ミクロ経済学

【経済学部 経済学科】

水上 英貴 准教授

ゲーム理論

今 喜史 助教

国際経済学

【法学部 法学科】

三木 義一 教授

税法

【経営学部 経営学科】

安田 洋史 教授

競争戦略論

竹内 規彦 准教授

組織行動

岩井 陽香 助手

情報教育

【国際政治経済学部 国際政治学科】

中山 俊宏 教授

現代アメリカ政治

阿部 達也 准教授

国際法学

和田 洋典 助教

国際政治経済論

【国際政治経済学部 国際経済学科】

飯坂 ひとみ 准教授

国際経済

【理工学部 物理・数理学科】

山崎 了 准教授

宇宙物理学

高峰 愛子 助教

原子・原子核物理

【理工学部 化学・生命科学科】

鈴木 正 教授

物理化学(レーザー光化学)

阿部 文快 准教授

分子遺伝学、圧力生理学

高橋 勇雄 助教

錯体化学、生物無機化学、表面化学

岡 伸人 助教

固体化学、伝熱工学、情報工学

磯崎 輔 助手

物理化学

【理工学部 電気電子工学科】

井岡 恵理 助手

非線形力学系解析

今村 薫 助手

半導体デバイス

内田 ゆず 助手

自然言語処理

風間 保裕 助手

アンテナ工学、電磁波工学、マイクロ波工学、通信工学

【理工学部 機械創造工学科】

横田 和彦 教授

航空宇宙工学

原 謙介 助教

機械力学

有川 秀一 助手

機械工学

金田 忍 助手

材料力学

【理工学部 経営システム工学科】

熊谷 敏 教授

経営工学

大内 紀知 准教授

技術・生産管理

日吉 久礎 准教授

メディア情報学

松浦 峻 助教

統計的品質管理

梶山 朋子 助手

ヒューマンコンピュータインタラクション、マルチメディア検索

金子 雅明 助手

品質マネジメント工学

繁住 健哉 助手

理論計算機科学

中田 洋平 助手

情報科学、統計科学

【理工学部 情報テクノロジー学科】

狐崎 直文 助教

光応用物理学

松原 俊一 助手

自然言語処理

【社会情報学部 社会情報学科】

伊藤 一成 准教授

メディア情報処理、自然言語処理

寺尾 敦 准教授

認知科学

伏屋 広隆 准教授

確率論、数理ファイナンス

【国際マネジメント研究科 国際マネジメント専攻】

長谷川 博和 特任教授

経営戦略

【法務研究科 法務専攻】

大江 忠 教授

要件事実論

塚原 英治 特任教授

労働法、司法制度、経営者責任、法曹倫理

【会計プロフェッション研究科 会計プロフェッション専攻】

内山 峰男 特任教授

会計

吉村 貞彦 特任教授

会計学、監査論

2009年度 学位授与式 大学院学位授与式

2010年3月27日(土) 青山学院記念館において大学学位授与式が挙行され、昼間部3,273名、第二部(夜間部)508名、合計3,781名の卒業生に学士の学位が授与されました。

また、同日ガウチャー記念礼拝堂において大学院学位授与式が挙行され、大学院博士前期課程および修士課程修了生268名に修士の学位、専門職学位課程修了生194名に専門職の学位、さらに博士課程修了生10名、論文博士2名に博士の学位が授与されました。



学位、専門職学位課程修了生194名に専門職の学位、さらに博士課程修了生10名、論文博士2名に博士の学位が授与されました。

Club & Circle Information

問い合わせ先
学生部学生課
TEL.03-3409-7835

*主な文化連合会・体育連合会の活動予定。
下記大会演奏会の日程・場所は予定のものです。今後変更になる可能性もあります。

主要活動予定(2010年6月~7月)

居合道部 第42回東日本居合道新人戦(6月) 第17回東京都女子居合道大会(7月)
弓道部 第40回全関東学生弓道選手権大会(6月)
剣道部 第58回全日本学生剣道選手権大会(7月) 第44回全日本女子学生剣道選手権大会(7月)
拳法部 全国大学選抜選手権大会(6月)
硬式野球部 全日本大学野球選手権大会(6月)
サッカー部 JR東日本カップ2010第84回関東大学サッカーリーグ戦(前期)
第24回関東大学サッカー選手権兼第34回総理大臣杯全日本サッカートーナメント関東予選(6月)
柔道部 全日本学生柔道優勝大会(6月)
水泳部 夏季関東学生公認記録会(7月)
漕艇部 東日本大学選手権大会(6月)
卓球部(男子・女子) 関東学生卓球選手権大会(6月) 全日本学生卓球選手権大会(シングルス・ダブルス)(7月)
チアリーディング部 第12回関東チアリーディング選手権大会(6月)
軟式野球部 春季リーグ戦(6月)
馬術部 第80回関東学生馬術争覇戦(6月) 平成22年度関東学生馬術競技大会(6月)
バレーボール部(男子・女子) 東日本大学男女バレーボール選手権大会(6月)
フェンシング部 剛毅杯(6月)
ボクシング部 関東大学リーグ戦(6月)
陸上競技部(短距離ブロック) 2010日本学生陸上競技個人選手権(6月)
レスリング部 東日本学生春季新人戦(6月)
二部バスケットボール部 前期リーグ戦(6月)
青山学院大学アナウンス研究会 ジョイント・モニター・フェスティバル(6月)
E.S.S. 大木杯スピーチコンテスト(6月)
演劇研究会 新人公演(6月)
オラトリオ・ソサエティ合唱団 KAY合唱団第121回定期演奏会(7月)
ギターアンサンブル 関東ギター連盟定期演奏会(6月)
競技ダンス部 東日本学生競技ダンス選手権大会 皐月杯争奪学生競技ダンス選手権大会
東部日本学生競技ダンスジュニア選手権大会(6月)
写真研究部 写真展(6月)
箏・尺八研究会 関東学生三曲連盟定期演奏会(6月)
ロイヤルサウンズジャズオーケストラ トライアングルコンサート(7月)

主要活動報告(2010年3月)

ビートルズ訳詩研究会 合同ライブ(3月)
陸上競技部(長距離部門) 日本学生ハーフマラソン 16位(3月)
自動車部 平成21年度全関東学生自動車運転競技選手権大会 小型乗用の部9位(3月)
航空部 全国学生グライダー選手権 団体9位(3月)

課外教育プログラムについて

課外教育プログラムは青山学院の教育方針を具現化し、正課では得ることのない知識や教養を体得し、そのことを通して社会の一員としてバランス感覚の整った学生を育成することを目的としています。

2010年度の課外教育プログラムの予定は以下の通りですので、奮ってご参加ください。詳細は学生部(青山キャンパス)・学生生活グループ(相模原キャンパス)にお問い合わせください。



4月6日(火)〈実施終了〉

アルコールパッチテスト

企画・目的: 新入生を対象として学生生活が始まるに際し、飲酒に対して自己の体質をよく理解するために実施します。

実施場所: 相模原キャンパス

5月19日(水)〈実施終了〉

上級救急救命法

企画・目的: 災害時、同時に多数の傷病者が発生した場合は、平常時のように救急車を期待することは困難となり、自主的な救護活動が極めて重要となります。このようなときのためにも救命講習を受けましょう。

実施場所: 渋谷消防署

募集人数: 20名程度

5月22日(土)

キャンパスライフを考えるー相模原キャンパスの学生生活を考えようー

企画・目的: 大学生生活で日々感じている問題点を話し合い、問題解決策を探り、充実したキャンパスライフを送るための機会を設定します。

実施場所: 相模原キャンパス

6月16日(水)

上級救急救命法

企画・目的: 災害時、同時に多数の傷病者が発生した場合は、平常時のように救急車を期待することは困難となり、自主的な救護活動が極めて重要となります。このようなときのためにも救命講習を受けましょう。

実施場所: 相模原キャンパス

募集人数: 50名程度

6月30日(水)

上級救急救命法

企画・目的: 災害時、同時に多数の傷病者が発生した場合は、平常時のように救急車を期待することは困難となり、自主的な救護活動が極めて重要となります。このようなときのためにも救命講習を受けましょう。

実施場所: 渋谷消防署

募集人数: 20名程度

9月15日(水)~17日(金)

手話講習会(集中講座 3日間)

企画・目的: 講習会を通して、手話への理解と、聴覚障害学生への支援活動を行います。

実施場所: 相模原キャンパス

募集人数: 30名程度(希望者数により上限は考慮する予定)

10月6日(水)

上級救急救命法

企画・目的: 災害時、同時に多数の傷病者が発生した場合は、平常時のように救急車を期待することは困難となり、自主的な救護活動が極めて重要となります。このようなときのためにも救命講習を受けましょう。

実施場所: 渋谷消防署

募集人数: 20名程度

11月28日(日)

旬野菜の健康家庭料理(秋企画)

企画・目的: 食文化を通しての異文化体験の場として、また食事作りを通して参加者の交流の機会を設定いたします。

実施場所: 外部施設利用

募集人数: 20名程度

*その他通年企画として使用済み切手・テレホンカードの回収を実施し、日本キリスト教海外医療協力会(JOCS 切手)、アジアキリスト教教育基金(ACEF テレホンカード)へ宗教センターを通して送付しています。

2010年度 入学式

2010年4月3日(土)、青山学院記念館において大学入学式が挙行され、昼間部4,237名、第二部(夜間部)110名、合計4,347名の新生が入学しました。また、同日、ガウチャー記念礼拝堂において、大学院入学式が挙行され、662名が入学しました。



総合研究所 研究成果発表状況

研究活動を終了したプロジェクトからは市販本や報告論集を研究成果として、研究途中のプロジェクトの一部からは中間報告が、2009年度は以下のとおり刊行されました。

2009年度研究成果

研究部	研究プロジェクト	研究成果
人文科学	イギリス・ルネッサンス期の言語と文化	市販本 『イギリス・ルネッサンス期の言語と文化—時代精神と自己形成—』(英宝社)2,730円
人文科学	ホロコーストの影を生きて—表象と継承	市販本 『ホロコーストの影を生きて—ユダヤ系文学の表象と継承—』(三交社)2,100円
社会科学	日本・モンゴルのFTA(自由貿易協定)結成に係わる研究	市販本 『モンゴルプロジェクト 日本・モンゴルのFTA(自由貿易協定)形成の意義と課題』(日本地域社会研究所)3,675円
自然科学	高精細画像利用遠隔医療授業システムの北里大との共同研究	報告論集
自然科学	スマートな多重連結車両システムのための制振装置の開発と知的制御	報告論集
課題別	拡大ヨーロッパと東アジアの地域再編—地域統合・安全保障・社会政策の比較研究	研究成果中間報告
eラーニング人材育成研究センター		市販本 『これ一冊でわかるeラーニング専門家の基本 ICT-ID・著作権から資格取得準備まで』(東京電機大学出版局)3,570円
		市販本 『国際言語環境の認識と対応 企業・行政における国際言語管理の考え方』(アルクコミュニケーションズ)1,890円
		研究叢書 TF26・TF29・TF42・TF61 e-learning専門家育成プログラム

News Index 2010.3~4

2010年3月~4月までの大学ウェブサイト「新着情報」の主なタイトルを掲載しています。

2010年3月

- 理工学部経営システム工学科の学生が日本統計学会春季集会ポスターセッション 学生優秀発表賞を受賞
- 理工学研究科博士前期課程1年長谷川翔平君がiWAT 2010 best paper prizeを受賞
- 全日本スキー選手権大会 女子デュアルモーグルで経営学部4年の水谷夏女さんが優勝
- 田中裕美さん(理工・機械創理工4年)が日本機械学会関東支部 関東学生会第49回学生員卒業研究発表講演会でBest Presentation Awardを受賞
- 青山学院共済会設立のご案内
- 理工学部化学・生命科学科 重里研究室の研究がNEDO基盤技術開発プロジェクトに採択されました
- 2009年度青山学院大学体育会優秀団体・選手表彰式ならびに祝賀会が行われました

2010年4月

- 理工学部化学・生命科学科 重里研究室の研究課題が、京都大学化学研究所「化学関連分野の深化・連携を基軸とする先端・学際研究拠点」に採択されました
- ケルン大学との協定に調印
- 社会情報学部の増永良文教授が、「第15回先進応用のためのデータベースシステムに関する国際会議(DASFAA 2010)」で「DASFAA Outstanding Contributions Award」と「Excellent Demonstration Award」を受賞
- 理工学研究科博士前期課程2年加藤祐樹さんが、自動車技術会の派遣学生として、国際会議「FISITA 2010 World Automotive Congress - student congress」に参加します

2009年度 学生表彰

2010年3月23日(火)、青山キャンパス総研ビル第18会議室において、「2009年度学生表彰授与式」が行われました。この表彰は、学生が在学中に学業および学友会活動以外の多様な分野において人の範となる活躍または業績をあげ、その行為が本人および青山学院大学の榮譽となるものについて、広く内外に顕彰することを目的としています。2009年度は以下の15名が受賞しました。



2009年度学生表彰 受賞者 ※学年は2009年度のものです。

- 第12回公共選択学会「学生の集い」最優秀賞(第1位)
経済学部 中村 まつるゼミナール3年Fパート
経済学部経済学科 古川 寛亮/植野 千鶴/原田 雅章/渡會 弘基
- 第61回学生広告論文電通賞 大学生個人部門 第2位
文学部心理学科(2009年3月卒業) 保屋野 慎司
- The 1st Model Asian Union インチョン大学学長賞
経済学部経済学科3年 内倉 慎吾
- 第17回日本山岳耐久レース(24時間以内)「長谷川 恒男cup」
女子総合 第39位 女子20代 第5位
理工学部化学・生命科学科1年 難波 夏季
- 第24回全国書写書道展覧会 読売新聞社賞
国際政治経済学部国際経済学科4年 片野 沙織
- 第64回国民体育大会 セーリング成年女子国体ウィンドサーフィン級 第9位
- 2009年度全日本ボードセーリング選手権大会 レディース・クラス 第3位
国際政治経済学部国際コミュニケーション学科4年 石橋 みなこ
- 第6回透明酸化物薄膜に関する国際会議(TOEO-6) Best Poster Award
- 第34回(2009)日本セラミックス協会学術写真賞 最優秀賞
理工学研究科理工学専攻機能物質創成コース 博士前期課程1年 村田 亜紀代
- 第1回石橋湛山新人賞 受賞
総合文化政策学研究科総合文化政策学専攻 博士課程(5年一貫制)4年 伊藤 真利子
- 平成21年度公認会計士試験 合格
経済学部経済学科4年 高木 麻衣
経済学部経済学科4年 溝口 徹
理工学部経営システム工学科4年 清水 希理子
- ポインティングデバイスの開発(特許申請中)
理工学研究科理工学専攻マネジメントテクノロジーコース 博士前期課程2年 山口 卓哉

2009年度 体育会優秀団体・選手表彰

2010年3月10日(水)アイビーホールにおいて「2009年度体育会優秀団体・選手表彰式」が行われました。式には松澤建理事長、半田正夫院長代行をはじめとする学院関係者、並びに伊藤定良学長ほか大学執行部、本郷茂学生部長、仙波憲一体育会会長、体育会各部長、表彰団体監督と多数出席のもと、以下の団体・選手が表彰されました。



2009年度体育会表彰団体・選手 ※学年は2009年度のものです。

【最優秀団体】
陸上競技部(長距離部門) 第41回全日本大学駅伝対抗選手権大会(名古屋市～伊勢市)総合15位(初出場)
第86回東京箱根間往復大学駅伝競走総合8位シード権獲得(41年ぶり)

【最優秀選手】
小林 高晃 (経営学部4年) バスケットボール部(男子) 第25回ユニバーシアード競技大会日本代表
第32回李相伯杯争奪日韓学生バスケットボール競技大会日本代表
比江島 慎 (文学部1年) バスケットボール部(男子) 第25回ユニバーシアード競技大会日本代表
第61回全日本学生バスケットボール選手権大会優秀選手賞
パワーリフティング部 文部科学大臣杯争奪 第36回全日本学生パワーリフティング選手権大会82.5kg級優勝
第88回関東学生パワーリフティング選手権大会82.5kg級優勝
田代 一将 (法学部3年) 文部科学大臣杯争奪 第36回全日本学生パワーリフティング選手権大会100kg超級優勝
第88回関東学生パワーリフティング選手権大会100kg超級優勝
城下 麗奈 (経済学部4年) 陸上競技部(短距離部門) 2009日本学生陸上競技個人選手権大会女子100mH優勝
第93回 日本陸上競技選手権大会女子100mH3位

【優秀団体】
居合道部 第42回東日本学生居合道大会優勝
第24回全日本学生居合道大会 ベスト8
バスケットボール部(男子) 第25回京王電鉄杯10大学バスケットボールフェスティバル優勝
第61回全日本学生バスケットボール選手権大会3位
第4回東西インカレバレーボール女子選抜優勝大会優勝
バレーボール部(女子) 第28回東日本大学バレーボール選手権大会3位

【優秀選手】
川上 春香 (経営学部2年) 空手道部 第53回全日本学生空手道選手権大会兼東西対抗戦女子形の部3位
出雲 達成 (経営学部4年) 日本拳法部 第2回東日本大学選手権大会一人形の部優勝
小池 翔大 (文学部第二部2年) 硬式野球部 第37回日米大学野球選手権大会日本代表 セ・パ誕生60周年記念 U-26NPB選抜対大学日本代表
宮原 愛美 (文学部4年) 少林寺拳法部 第46回少林寺拳法関東学生大会男女二段以上の部最優秀賞
渡邊 陽樹 (経営学部第二部4年) 少林寺拳法部 第43回少林寺拳法全日本学生大会運用法・男子有段の部優勝
山上 悠紀 (総合文化政策学部1年) 少林寺拳法部 第43回少林寺拳法全日本学生大会女子単独有段の部優勝
渡邊 裕規 (国際政治経済学部4年) バスケットボール部(男子) 第32回李相伯杯争奪日韓学生バスケットボール競技大会日本代表
湊谷 安玲久司 (国際政治経済学部1年) バスケットボール部(男子) 第25回京王電鉄杯10大学バスケットボールフェスティバル最優秀選手賞
橋本 竜馬 (経済学部3年) バスケットボール部(男子) 第32回李相伯杯争奪日韓学生バスケットボール競技大会日本代表
中川 真雄 (国際政治経済学部2年) バスケットボール部(男子) 第32回李相伯杯争奪日韓学生バスケットボール競技大会日本代表
森 香奈子 (経済学部2年) 馬術部 第45回全日本学生馬術女子選手権大会準優勝
本岡 ちさと (経済学部第二部3年) バドミントン部(女子) 第60回全日本学生バドミントン選手権大会シングルス3位ダブルス3位
中原 唯衣 (経済学部2年) バドミントン部(女子) 第60回全日本学生バドミントン選手権大会ダブルス3位
千葉 智枝美 (経済学部4年) バレーボール部(女子) 第25回ユニバーシアード競技大会日本代表 全日本バレーボール学生選抜男女東西対抗戦2009 東軍代表
江森 圭美 (経営学部4年) バレーボール部(女子) 第4回東西インカレバレーボール女子選抜優勝大会 最優秀選手賞
一柳 風末 (文学部3年) フェンシング部 ジュニア・カデ世界選手権大会女子エペ日本代表
全日本学生個人選手権大会女子エペ6位
伊藤 真 (理工学部4年) ラグビー部 7人制クエア・サファリセブズ日本代表
米澤 頌 (国際政治経済学部4年) 陸上競技部(長距離部門) 第86回東京箱根間往復大学駅伝競走大会2区5位
荒井 輔 (法学部4年) 陸上競技部(長距離部門) 第86回東京箱根間往復大学駅伝競走大会3区7位
第88回関東学生陸上競技対抗選手権大会男子2部1500m優勝

市岡 敬介 (国際政治経済学部4年) 陸上競技部(長距離部門) 第86回東京箱根間往復大学駅伝競走大会7区5位
川船 愛美 (経済学部3年) 陸上競技部(短距離部門) 第88回関東学生陸上競技対抗選手権大会女子100mH優勝
佐藤 大志 (理工学部1年) 陸上競技部(短距離部門) 第88回関東学生陸上競技対抗選手権大会男子2部110mH優勝
第25回日本ジュニア陸上競技選手権大会男子110mH準優勝
陸上競技部(短距離部門) 天皇賜杯第78回日本学生陸上競技対校選手権大会女子100mH3位
第25回日本ジュニア陸上競技選手権大会女子100mH準優勝
レスリング部 全日本学生選手権大会(グレコローマン)84kg級3位
天皇杯全日本選手権大会(グレコローマン)84kg級3位
レスリング部 全日本学生選手権大会(グレコローマン)120kg級準優勝
全日本大学グレコローマン選手権大会120kg級3位
丸山 明子 (経営学部4年) レスリング部 全日本学生選手権大会女子63kg級3位
天皇杯全日本選手権大会女子63kg級ベスト8
レズリング部 JOCジュニアオリンピックカップ全日本ジュニアレスリング選手権大会(グレコローマン)74kg級準優勝
アジアジュニア選手権大会(グレコローマン)74kg級5位

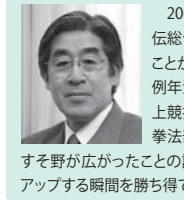
【敢闘団体】
アイススケート部(ホッケー部門) 平成21年度関東大学アイスホッケーリーグ戦7勝全勝ディビジョンII優勝ディビジョンI昇格
空手道部 第52回全国空手道選手権大会(形の部)協会準優勝
自動車部 全日本学生自動車運転競技選手権大会(男子)5位(女子)準優勝
柔道部 第58回全日本学生柔道優勝大会出場(5年ぶり)
第28回全日本学生柔道団体重別団体優勝大会出場(4年ぶり)
水泳部 第82回関東学生選手権水泳競技大会(男子)3部優勝(20年ぶり)2部昇格
ハンドボール部 関東学生ハンドボール秋季リーグ戦3部優勝2部昇格
陸上競技部(短距離部門) 第20回関東学生新人陸上競技選手権大会女子4×100mリレー優勝

【敢闘選手】
高橋 美澄 (国際政治経済学部2年) アイススケート部(フィギュア部門) 第3回東日本学生フィギュアスケート選手権大会兼 第82回日本学生水上競技選手権大会選考競技会Cクラス女子優勝
自動車部 第57回全日本学生自動車運転競技選手権大会男子小型貨物の部B準優勝
自動車部 第57回全日本学生自動車運転競技選手権大会女子小型乗用の部準優勝
バドミントン部(男子) 秩父宮・秩父宮妃杯争奪 第60回全日本学生バドミントン選手権大会シングルスベスト8ダブルスベスト8
バドミントン部(男子) 秩父宮・秩父宮妃杯争奪 第60回全日本学生バドミントン選手権大会ダブルスベスト8
石川 直樹 (経済学部3年) パワーリフティング部 第87回関東学生パワーリフティング選手権大会52kg級優勝
富田 雄大 (経営学部4年) パワーリフティング部 第87回関東学生パワーリフティング選手権大会56kg級準優勝
渡合 龍 (文学部2年) パワーリフティング部 第88回関東学生パワーリフティング選手権大会60kg級準優勝・新人の部優勝
須川 陽介 (法学部4年) パワーリフティング部 第88回関東学生パワーリフティング選手権大会60kg級準優勝・新人の部優勝
上野 慶貴 (理工学部3年) 関東学生アーチャーフィールド個人選手権大会男子4位
横山 大士 (経済学部2年) 陸上競技部(短距離部門) 第88回関東学生陸上競技対抗選手権大会男子2部棒高跳準優勝
赤嶺 希 (経営学部1年) レスリング部 JOCジュニアオリンピックカップ全日本ジュニアレスリング選手権大会(グレコローマン)66kg級3位
レスリング部 JOCジュニアオリンピックカップ全日本ジュニアレスリング選手権大会(グレコローマン)96kg級3位
岡田 淳貴 (文学部4年) ラクロス同好会 第22回関東学生ラクロスリーグ2部ベスト12(MF部門・FO部門)

【奨励選手】
大木 貴博 (経済学部1年) 空手道部 第37回関東学生空手道選手権大会男子形の部準優勝
中村 愛理 (文学部1年) バレーボール部(女子) 第4回東西インカレバレーボール女子選抜優勝大会 リベロ賞
吉川 友樹 (理工学部2年) パワーリフティング部 第88回関東学生パワーリフティング選手権大会75kg級4位・新人の部準優勝
森 友秀 (文学部1年) パワーリフティング部 第88回関東学生パワーリフティング選手権大会82.5kg級3位・新人の部優勝

ニルルス プライアン (経済学部4年) 第57回全日本学生自動車運転競技選手権大会男子小型貨物の部B準優勝
鈴木 沙織 (経済学部第二部4年) 自動車部 第57回全日本学生自動車運転競技選手権大会女子小型乗用の部準優勝
高階 知也 (文学部第二部3年) バドミントン部(男子) 秩父宮・秩父宮妃杯争奪 第60回全日本学生バドミントン選手権大会シングルスベスト8ダブルスベスト8
バドミントン部(男子) 秩父宮・秩父宮妃杯争奪 第60回全日本学生バドミントン選手権大会ダブルスベスト8
宮原 航太 (経済学部3年) パワーリフティング部 第87回関東学生パワーリフティング選手権大会52kg級優勝
富田 雄大 (経営学部4年) パワーリフティング部 第87回関東学生パワーリフティング選手権大会56kg級準優勝
渡合 龍 (文学部2年) パワーリフティング部 第88回関東学生パワーリフティング選手権大会60kg級準優勝・新人の部優勝
須川 陽介 (法学部4年) パワーリフティング部 第88回関東学生パワーリフティング選手権大会60kg級準優勝・新人の部優勝
上野 慶貴 (理工学部3年) 関東学生アーチャーフィールド個人選手権大会男子4位
横山 大士 (経済学部2年) 陸上競技部(短距離部門) 第88回関東学生陸上競技対抗選手権大会男子2部棒高跳準優勝
赤嶺 希 (経営学部1年) レスリング部 JOCジュニアオリンピックカップ全日本ジュニアレスリング選手権大会(グレコローマン)66kg級3位
レスリング部 JOCジュニアオリンピックカップ全日本ジュニアレスリング選手権大会(グレコローマン)96kg級3位
岡田 淳貴 (文学部4年) ラクロス同好会 第22回関東学生ラクロスリーグ2部ベスト12(MF部門・FO部門)

【奨励選手】
大木 貴博 (経済学部1年) 空手道部 第37回関東学生空手道選手権大会男子形の部準優勝
中村 愛理 (文学部1年) バレーボール部(女子) 第4回東西インカレバレーボール女子選抜優勝大会 リベロ賞
吉川 友樹 (理工学部2年) パワーリフティング部 第88回関東学生パワーリフティング選手権大会75kg級4位・新人の部準優勝
森 友秀 (文学部1年) パワーリフティング部 第88回関東学生パワーリフティング選手権大会82.5kg級3位・新人の部優勝



2009年度の活動成果はなんといっても陸上競技部(長距離部門)の箱根駅伝総合8位、41年ぶりのシード権獲得です。長らく青学生・校友が夢見ていたことが実現された、素晴らしい結果です。心から祝福したいと思います。また、例年活躍するバスケットボール部(男子)、バレーボール部(女子)に加え、陸上競技部(短距離部門)、パワーリフティング部、居合道部、空手道部、少林寺拳法部等の活躍が素晴らしかった。活躍した種目が広がることは、体育会のすそ野が広がったことの証です。選手諸君にはさらに上を目指して、厳しい練習に耐え、ステップアップする瞬間を勝ち得てほしいです。(体育会会長 仙波 憲一 国際政治経済学部教授)

青山スタンダード科目 最終回

「青山スタンダード科目」は、 本学学生の“質保証”に つながります。



長谷川 信

学務・学生担当副学長
(青山スタンダード教育機構長)

2003年度の相模原キャンパス開学と同時にスタートした「青山スタンダード科目」。誌上公開講座では、毎回青山スタンダード科目の対象科目をピックアップしてきましたが、今回で“最終回”を迎えることになりました。そこで青山スタンダード教育機構長を務める長谷川信副学長に、導入から8年目を迎えた青山スタンダード科目の役割と今後の展望を聞きました。

専門科目との相互補完を担う 青山スタンダード科目

本学では2003年度から、それまでの教養教育の在り方を抜本的に改革した、独自の「青山スタンダード科目」をスタートしました。そのねらいは、「およそ青山学院大学の卒業生であれば、どの学部・学科を卒業したかに関わりなく、一定の水準の技能・能力と一定の範囲の知識・教養を備えているという社会的評価を受けることを到達の目標とする」と位置づけています。在学中はもちろんのこと、社会に出てからも通用するだけの優れた知性・人間性を備えるためのベースにもなる学びのシステムです。

「スタンダード」という言葉は標準や基準という意味を持つため、少し固いイメージを抱かれるかもしれませんが、青山スタンダード科目は、とても柔軟で幅広い教養と技能を身につけられるものであり、その仕組みや構成も独特です。まず1年次の初めには「フレッシュャーズ・セミナー」が設けられます。これは20名程の少人数によるゼミ形式で行われる科目で、大学で学ぶために必要となる技法等を身につけることが目的です。いわば入門的科目ですが、このフレッシュャーズ・セミナーの学びが、「コア科目」と呼ばれる本学らしい多彩で先進的な学びに結びついていきます。

コア科目は「技能コア」と「教養コア」に分かれます。「青山スタンダード科目のねらい」に当てはめれば、技能コアは“一定の水準の技能・能力”、教養コアは“一定の範囲の知識・教養”を身につけるための科目です。さらにコア科目の発展的な科目として「テーマ別科目」を設置しています。テーマ別科目においては、寄附講座や実務者講師による講義を取り入れるなど、幅広い知識や教養を得るための工夫も積極的に行っています。

そして青山スタンダード科目の大きな特色のひとつが、コア科目とテーマ別科目に共通して設けられている8つの「領域」です。これは従来の学

問分野ありきの一般教養と呼ばれた仕組みとは一線を画したもので、狭い専門領域にとらわれることなく、「人間理解」や「社会理解」「自然理解」など、時代のニーズをとらえて組み立てた本学独自の領域設定となっています。

青山スタンダード科目は、単なる導入教育ではありません。専門科目と相互補完できるような特色を持った科目です。そのため1、2年次だけでなく、3、4年次でも履修できるシステムになっています。一時期、一般的に重要視されていなかった教養教育のあり方が、昨今再び見直され始めていますが、他大学に先駆けて2003年に「青山スタンダード科目」の構築に着手したことは、本学において今も大きなアドバンテージとなっているのです。

学生はもちろんのこと、 教員の視野も広げる開放性

青山スタンダード科目は、柔軟性ととともに開放性も備えた科目です。とくに開放性については、教員の講義への取り組み方にその成果が見られます。学部・学科の枠を超えて学際的に学べる青山スタンダード科目の担当教員は、当然ながら自分の所属学部以外の学生にも教えることになります。つまり自分の専門を深めるだけのテーマ設定では、内容を理解できない学生が出てくる恐れがあるわけです。そのため教員側が専門性を広げ、自分の研究を社会問題と関連させてテーマづけるなど、多くの学生が理解でき、興味を示せるようなコンテンツを用意することになります。こうした学生だけでなく、教員側も視野を広げる機会になっている点に、青山スタンダード科目の“強み”があるのです。

本学が自信を持って学生に届けている「青山スタンダード科目」ですが、決して“完成”しているとは考えておりません。科目の組み換えや開発など、その時代ごとに応じた科目設定を行うことは必須であり、あらかじめ3年周期で内容を見直す

ことが定められています。近年では昨年2009年に見直しを行い、改革の一環として、初年次教育の充実を図ることをねらいとした「ウェルカム・レクチャー」を設置しました。

ウェルカム・レクチャーは、学問入門編とも呼べる科目です。学問領域の異なる複数名の教員によって運営され、学生たちは毎回、教員ごとに違った視点でのレクチャーを受けることになります。異なる分野の専門家による相互交流、いわば“知性のオープン化”は教員自身にも新鮮な刺激を与え、多彩な学問が融合した学びを試行しています。ウェルカム・レクチャーも青山スタンダード科目の特色のひとつである開放性を備えた科目といえるでしょう。

青山スタンダード科目が これから目指す方向性

これからも青山スタンダード科目は、全学共通教育システムとしての機能を高めていく必要があります。それが社会的評価を受け、また最近よく耳にする言葉でいえば、本学学生の“質保証”にもつながるはずです。2009年に設置したウェルカム・レクチャーだけでなく、今後は、初年次教育を重要視した科目の充実が必要だと考えています。例えば、キャリアを意識させる科目や文章の作成能力を向上させる科目など、1年次の早い段階から取り組み、それが卒業後にも役立つスキルとなるような科目です。時代が求める新しい科目開発には、これからも積極的に対応していきます。

2012年には本学において就学キャンパスの再配置が予定されており、青山スタンダード科目も両キャンパスにおける4年一貫教育への対応が必要となります。今後とも全学的な協力体制のもとで、青山スタンダード科目のすぐれた理念を継承しつつ、特色ある全学共通教育システムとしての青山スタンダード教育を推進してまいりますので、ご期待ください。

2010年度ペアレンツウィークエンドのお知らせ

青山学院大学では、大学後援会事業の一環として保護者のみなさまとの連絡を密にし、ご子女に関する相談や本学に対するご意見等をうかがい、それらを大学運営に反映させる目的をもって、懇談会を開催しています。今年度の開催日程は下表のとおりです。対象となる保護者の方には、改めてご案内いたします。



より多くの保護者のみなさまの参加をお待ちしております。

全学部1年生の保護者対象ペアレンツウィークエンド

開催日	学 部	開催キャンパス
6月26日(土)	全学部1年生	相模原

開催時間●13:00~17:00

対象:どなたでも参加いただけます。(懇談会内容は、主に全学部1年生の保護者の方を対象としています)

学部別ペアレンツウィークエンド(主に2~4年生の保護者対象)

開催日	対象学部	開催キャンパス
5月29日(土)	経済学部、総合文化政策学部	青 山
6月12日(土)	経営学部、法学部	
6月19日(土)	文学部・教育人間科学部(2学部合同)、国際政治経済学部	相模原
7月3日(土)	理工学部	
10月10日(日)	社会情報学部	

開催時間●13:00~16:30(学部によって時間が異なる場合があります)

対象:どなたでも参加いただけます。(懇談会内容は、主に2~4年生の保護者の方を対象としています)

地区開催

地 区	開催都市	開催日	会 場
北 海 道	札幌市	8月22日(日)	ホテルオークラ札幌
	函館市	8月21日(土)	ロワジールホテル函館
岩 手	盛岡市	7月11日(日)	ホテルメトロポリタン盛岡NEWWING
福 島	郡山市	9月5日(日)	郡山ビューホテルアネックス
茨 城	水戸市	8月28日(土)	三の丸ホテル
新 潟	新潟市	7月4日(日)	新潟グランドホテル
長 野	長野市	8月8日(日)	ホテルメトロポリタン長野
石 川	金沢市	7月24日(土)	ANAクラウンプラザホテル金沢
愛 知	名古屋市	8月1日(日)	キャッスルプラザ
静 岡	浜松市	7月25日(日)	オークラアクトシティホテル浜松
広 島	広島市	8月28日(土)	ホテルグランヴィア広島
大 阪	大阪市	8月29日(日)	リーガロイヤルホテル
島 根	松江市	7月11日(日)	松江東急イン
愛 媛	松山市	7月19日(日)	松山全日空ホテル
高 知	高知市	8月21日(土)	三翠園
長 崎	長崎市	8月7日(土)	長崎全日空ホテルグラバービル
福 岡	福岡市	8月8日(日)	ホテルオークラ福岡
宮 崎	宮崎市	7月17日(土)	ホテルスカイタワー
鹿 児 島	鹿児島市	7月31日(土)	城山観光ホテル

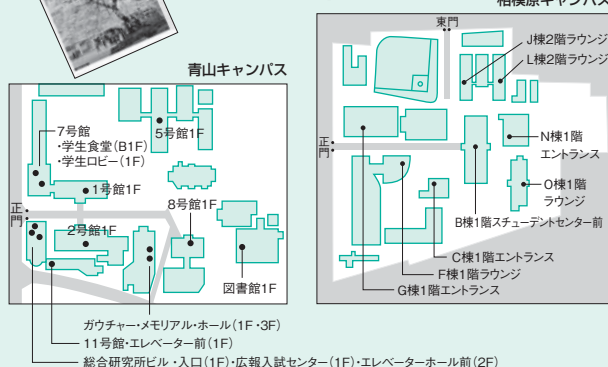
開催時間●10:30~15:00(会場によって時間が異なる場合があります)

対象:全都道府県在住、全学年の保護者の方。お住まいの近くの会場に限らず、どの会場にご出席いただいても結構です。

お問い合わせ先: 庶務部庶務課 ペアレンツウィークエンド 担当
TEL. 03-3409-8568

<http://www.aoyama.ac.jp/target/parents/>

AGUニュース専用スタンド設置箇所案内図



前期チャペル・ウィーク

5月24日(月)~29日(土)は前期チャペル・ウィークです。チャペル・ウィークは、春と秋の年2回、各界で活躍中のクリスチャンをお招きして大学礼拝でお話をさせていただく特別伝道週間です。



この期間は普段の大学礼拝とは異なり、教会の牧師や宣教師だけでなく、一般企業の要職にある方、社会福祉の現場で活動されている方、教育に携わっている方、音楽家の方などが、それぞれの分野での豊富で貴重なご経験のもと、ご自身のお働きとキリスト教との関わりについて語っていただきます。聖書に示される神様の愛と慈しみを、より身近に具体的なものとして受け止めることができるでしょう。

宗教センター主催

青山学院フィリピン訪問プログラム

3月16日(火)~26日(金)10泊11日で行いました。このプログラムは、チャイルド・ファンド・ジャパンが支援する現地の地域センター(フィリピン各地に設立され、子どもたちの就学支援、地域支援などを行う)を訪問し、その活動を知ることを中心にしています。

プログラム前半は大学生5名、引率教員2名が参加し、後半は初等部、中等部より児童、生徒それぞれ6名、引率教員それぞれ2名、それにチャイルド・ファンドのスタッフ1名が加わり、総勢24名となりました。前半のヤマ場はルソン島(フィリピン全土では7千以上の島があります)内の農村部(マニラからバスで北に約8時間)でのホームステイです。今年はダルッパ村にお世話になりました。この地域は、ソラーノ市にあるメソジスト系のアルダースゲート大学内に設立されたセンターが支援しています。通訳してくださる現地の方と二人一組で各家庭にステイし、バナナやココナッツの収穫、ほうき作りなどを体験し、またカラバオ(水牛)に乗ったりと、現地の生活を肌で感じることができました。

初等部、中等部と合流後、日曜日にはマニラ市内のカトリック教会の早朝ミサ、さらにプロテスタント教会の礼拝に出席しました。翌日には、フィリピン最大のごみ処分場のあるパヤタスに行き、センターや家庭を訪問しました。職を求めて地方から出て来て、今はごみ山のごみを収入源にしている人々の生活に触れたり、手芸品のフェアトレードに取り組んでいるグループを見学しました。次の日には、バナイ島のイロイロ(都市の名前です)に移動し、センターを訪問したり、マイクロファイナンスを実践して成功している生活協同組合の様子を見学しました。海を渡ったギマラス島では、一緒にフィリピン料理を作ったり、交流会をしたり、センターが支援する子どもたちの通う学校を訪問しました。雨が降らず、農作物に影響が出ている現状も伺いました。



ハニワイ・センター(イロイロ)にて

都市部や農村部の生活、フィリピンの歴史など多くのことを学びましたが、中でも印象に残ったのは、海外での高収入の仕事

を辞めてパヤタスのセンターで働く看護師や支援を受けて大学を卒業した後、現地のセンター・スタッフとなった人たちの献身的な姿です。

後日、報告会を開催します。詳細は宗教センターまでお問い合わせください。

(大学宗教主任・社会情報学部 准教授 大宮 謙 記)

2010年度 進学相談会開催日程

青山学院大学では、本学受験を希望する受験生に情報を提供し、本学への理解を深めていただくため、全国各地で開催される進学相談会に参加しています。開催日程は以下のとおりです。

6/11(金)	函館	ベルクラシック函館	5/23(日)	新潟	朱鷺メッセ
6/12(土)	札幌	アステア45	5/31(月)	甲府	ベルクラシック甲府
8/27(金)	札幌	札幌パークホテル	6/1(火)	松本	ホテルプエナピスタ
9/25(土)	札幌	サッポロファクトリーホール	6/2(水)	長野	ビッグハット
6/1(火)	仙台	AER	7/8(木)	新潟	ANAクラウンプラザホテル新潟
6/22(火)	盛岡	ホテルメトロポリタン盛岡	9/15(水)	金沢	金沢駅もてなしドーム
6/23(水)	青森	青森市文化会館	6/12(土)	名古屋	ナディアパーク(デザインホール)
6/27(日)	仙台	仙台サンプラザ	6/15(火)	静岡	ツインメッセ静岡
7/2(金)	郡山	郡山ビューホテルアネックス	8/7(土)	名古屋	名古屋国際会議場
7/3(土)	福島	エスビル福島	10/2(土)	静岡	パルシェ
10/23(土)	福島	コラッセ福島	6/19(土)	大阪	梅田センタービル(クリスタルホール)
6/1(火)	水戸	水戸プラザホテル	7/11(日)	京都	みやこメッセ
6/8(火)	宇都宮	マロニエプラザ	9/4(土)	神戸	神戸サンポーホール
6/9(水)	宇都宮	マロニエプラザ	9/20(日)	大阪	大阪府立体育館
5/29(土)	池袋	サンシャインシティ ワールドインポートマート	5/29(土)	広島	基町クレド
6/1(火)	大宮	大宮ソニックシティ	6/1(火)	岡山	岡山コンベンションセンター
6/8(火)	渋谷	渋谷エクセルホテル東急	6/20(日)	広島	基町クレド
6/12(土)	横浜	横浜新都市ホール	9/10(金)	徳島	ホテルクレメント徳島
6/13(日)	千葉	京葉銀行文化プラザ	9/11(土)	松山	松山市総合コミュニティセンター
7/10(土)	池袋	サンシャインシティ 文化会館	9/17(金)	高松	全日空ホテルクレメント高松
7/11(日)	立川	立川グランドホテル	9/18(土)	高知	高知市文化プラザかるぽーと
7/12(月)	新宿	NSビル	6/3(木)	鹿児島	鹿児島商工会議所ビル
7/15(木)	有楽町	東京国際フォーラム	6/4(金)	熊本	ホテル日航熊本
7/25(日)	横浜	パシフィック横浜	6/5(土)	福岡	エルガーラ
9/26(日)	横浜	パシフィック横浜	7/3(土)	福岡	エルガーラ
			9/29(水)	宮崎	MRT micc
			7/8(木)	那覇	パシフィックホテル沖縄
			7/9(金)	那覇	パシフィックホテル沖縄

※開催日・会場等は変更になる場合がありますので、広報入試センターにお問い合わせください。
※進学相談会の全日程は本学ウェブサイトでご覧いただけます。

学生支援の奨学金募金

「青山学院 エバーグリーン募金」

ご協力を
お願いします

「奨学金募金」をご寄付により奨学金を給付し、学生を支援する募金制度です。勉学および課外活動に意欲的な学生、困難の中で懸命に努力する学生を経済的側面から支援し、学費や生活費の負担軽減で、学生に安心と充実を与えるものです。

皆さま一人ひとりの思いやりが大きな支援に繋がります。

ご協力をお考えの際は、募金事務局までご連絡ください。パンフレットをお送りいたします。

募金事務局(間島記念館1階)
TEL: 03-3409-6208 FAX: 03-3409-3890

Club&Circle 2 青山学院大学応援団

“大学の顔”として、今日も誰かを“応援”しています。

本学の体育会に所属する団体への応援や青山祭におけるライブの前座などが、「青山学院大学応援団」の主な活動内容です。いろいろな団体との交流があるため、多くの人たちと知りあいになれるのが応援団の特権。スポーツの大イベントなどでは、理事長や学長とも密接にかかわることもできます。また、自分の考え方、内面、そして肉体的にも、ポジティブかつ積極的でなければ、誰かを“応援”することはできません。応援団に入ること、常に前向きな姿勢でものごとに取り組めるようになったと思います。

応援団は、大学や他の学生団体からの厚い信頼のもとで活動している組織です。常に多くの人が集まる舞台での活動が基本となるので、いわば“大学の顔”であるとの自覚を持ち、団員一人ひとりが日々自分自身を磨いています。これからも青山学院大学の先頭に立ち、大学全体を盛り上げていくつもりです。(応援団長:経営学部3年 松本 諒)

2010年度 オープンキャンパス

青山キャンパス

●2010年8月1日(日) 10:00~16:00

●2010年8月28日(土) 10:00~16:00

※青山学院女子短期大学

8月1日(日)・8月28日(土)同日開催

相模原キャンパス

●2010年7月25日(日) 10:00~16:00

※青山キャンパス、相模原キャンパスともに、全学部対象です。予約は不要、入退場も自由です。詳細については、決定次第、本学ウェブサイトにて随時お知らせします。

開催内容

歓迎礼拝/大学紹介/入試概要紹介/全学共通教育システム「青山スタンダード」概要紹介/各学部学科紹介/学部学科企画(模擬授業等)/入試問題解説/個別進学相談/留学説明会/大学紹介DVD上映/教育施設自由見学/資料閲覧等を予定しています。

※学部・学科によって企画内容は異なり、また変更になる場合があります。



★オープンキャンパス学生ボランティア募集中!!

25,000名以上の来場があるオープンキャンパスにて、受付・案内などの作業をボランティアでお手伝いいただける学生(本学学生のみ)を募集しています。募集要項の配布、申込受付は、学生部学生課(青山キャンパス)およびスチューデントセンター・学生生活グループ(相模原キャンパス)にて、6月7日(月)まで行っています。ぜひご協力ください。

※オープンキャンパスの開催内容等については、本学ウェブサイトでご確認ください。お問い合わせ先 広報入試センター TEL. 03-3409-8626

大学紹介パンフレットのデジタルパンフレットをHP掲載

大学紹介パンフレットおよびビデオが下記アドレスにてご覧いただけます(内容の一部抜粋)。なお、2011年度版については6月以降にアップロード予定です。
<http://www.aoyama.ac.jp/admission/college/reference/index.html>



箱根駅伝での応援の一コマ

箱根駅伝祝勝会にて

AGUニュースについて

青山学院大学では、大学広報誌「AGUニュース」を年5回(1月、3月、5月、7月、10月)発行し、在学生の保証人の方々へ送付しています。また、在学生を対象としてキャンパス内AGUニュース専用スタンドにて配布しています。

●なお、「AGUニュース」を確実に保証人の方々へお届けするため、住所が変更になった場合は、住所変更の手続きをお取りください。

青山キャンパス→学生部厚生課

事務取扱窓口

相模原キャンパス→スチューデントセンター・学生生活グループ